

2018年（平成30年） 8月31日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

8/9~8/22のNYMEX・WTIは、65.01~67.86ドルの範囲で推移した。

8月23日は、前日のEIA米国原油在庫の予想を上回る減少報告など米国の需給引き締め感と米中貿易摩擦による景気後退懸念が拮抗する形でほぼ横ばいとなった。10月限終値は前日比0.03ドル安の67.83ドルだった。なお、この日、ロイターは関係筋の話としてサウジアラムコの新規株式上場(IPO)中止を報じた。

週末24日は、パウエル連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演に対するドル売りで原油先物に割安感が広がり、また、一部欧州企業がイラン原油の輸入を削減中との報道、さらに、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数860基(前週比9基減)の発表もあり、反発した。10月限終値は前日比0.89ドル高の68.72ドル。

週明け27日は、前週末からの流れの中で、続伸した。ただ、ジュンスケープ社のクッシングの原油在庫76万バレル増加報告、OPEC・非加盟産油国合同監視委員会の減産遵守率が6月の147%から7月の109%に低下したとの発表が上値を抑えた。10月限終値は前週末比0.15ドル高の68.87ドル。

28日は、米国・メキシコ間の北米貿易協定改訂合意など景気見通しの好転、ドル安による原油先物の割安感により続伸で始まったものの、その後、利益確定売りが相次ぎ3営業日ぶりに反落した。10月限終値は前日比0.34ドル安の68.53ドル。

29日は、EIA在庫週報の米国原油在庫の予想を上回る

260万バレル減少、WSJ紙によるイラン国営石油(NIOC)の原油輸出が6月時点の日量230万バレルから9月には同150万バレル程度に減少するとの見通しの報道、ドル安の進行などから、反発した。10月限終値は前日比0.98ドル高の69.51ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は、前々週と前週69.70~71.50ドルの範囲で推移した。8月23日73.20ドル、24日74.00ドル、27日74.40ドル、28日74.80ドル、29日74.30ドルで推移した。

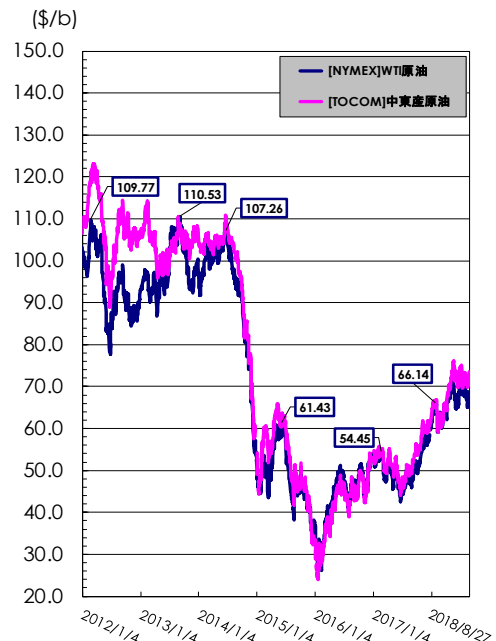
為替は、前々週と前週109.90~111.40円の範囲で推移した。8月23日110.78円、24日111.51円、27日111.20円、28日111.23円、29日111.23円で推移した。

財務省が30日発表した貿易統計(速報)によると、8月上旬の原油輸入平均CIF価格は、54,307円/klで、前旬比186円高、ドル建てでは77.30ドルで前旬比0.29ドル高。為替レートは1ドル/111.70円だった。

主要元売会社の8月第4週に適用する卸価格は、全油種0.5~1.5円の値下げとなった。原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、8月27日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油が同0.2円の値下がり、灯油は同1円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、2週連続の値下がりだった。この週(8月第3週)の原油コストは値下がりしたが、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに0.5円の値下げと据え置きに分かれた。

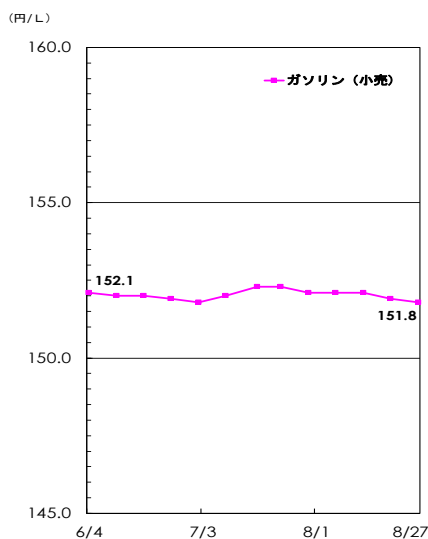
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/19 ~ 8/25	3,687 ▼ -9	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	94.2 ▼ -0.2	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/25	12,481 ▲ 89	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/27	73.57 ▲ 3.47	▲ 23.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/27	68.87 ▲ 2.44	▲ 22.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	77.30 ▲ 0.29	▲ 28.32
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	54,307 ▲ 186	▲ 20,175
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.70 ▲ 0.03	▼ -0.92
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/27	112.20 ▼ -0.64	▼ -2.09



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/19 ~ 8/25	996 ▼ -174	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	932 ▼ -168	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -32	▼ -	
	在庫	8/25	1,554 ▲ 64	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/21 ~ 8/27	66.5 ▲ 0.2	▲ 17.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/21 ~ 8/27	64.5 ▲ 0.4	▲ 15.1
		(TOCOM/中部)	8/27	65.3 ▲ 0.6	▲ 16.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/27	151.8 ▼ -0.1	▲ 20.4	

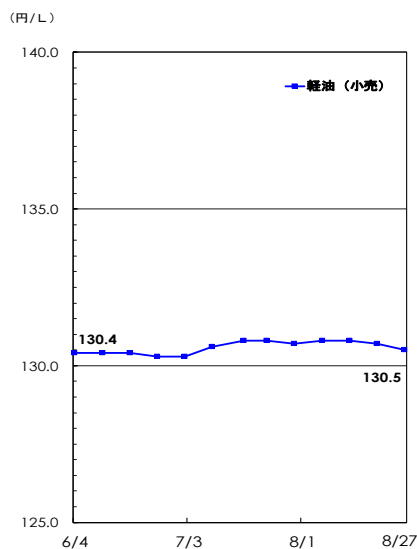
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

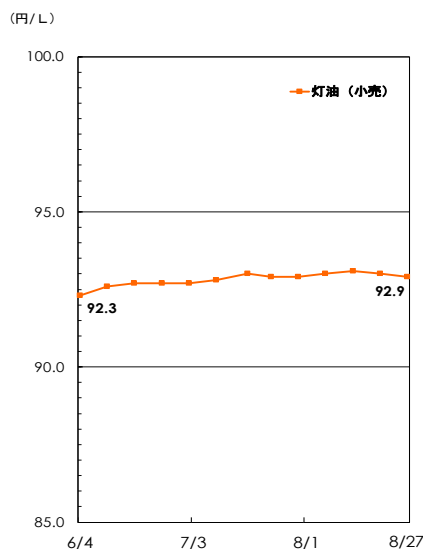
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/19 ~ 8/25	910 ▲ 172	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	694 ▲ 351	▲ -	
	輸出	"	194 ▲ 5	▼ -	
	在庫	8/25	1,642 ▲ 22	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/21 ~ 8/27	67.2 ▼ -0.6	▲ 19.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/21 ~ 8/27	68.1 ▼ -0.2	▲ 20.1
		(TOCOM/中部)	8/27	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/27	130.5 ▼ -0.2	▲ 20.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/19 ~ 8/25	252 ▼ -5	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	92 ▲ 15	▼ -	
	輸出	"	19 ▼ -6	▲ -	
	在庫	8/25	2,121 ▲ 141	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/21 ~ 8/27	66.3 ▼ -0.4	▲ 18.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/21 ~ 8/27	67.5 ▲ 2.2	▲ 19.4
		(TOCOM/中部)	8/27	69.0 ▲ 3.0	▲ 21.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/27	92.9 ▼ -0.1	▲ 16.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月29日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が市場予想(前週比70万バレル減)を大きく上回る同260万バレルの取り崩し、ガソリンも同160万バレル・中間溜分も同80万バレルの減少、また、WSJ紙によるイラン国営石油(NIOC)の原油輸出が6月時点の日量230万バレルから9月には同150万バレル程度に減少するとの見通しが報じられたこと、為替市場でドル安・ユーロ高の進行に伴う原油先物の割高感などから、反発した。10月限終値は前日比0.98ドル高の69.51ドル、11月限の終値は前日比0.95ドル高の69.17ドルだった。

EIAによると、8月27日時点のガソリンの小売価格は、前

週比0.6セント値上がりの1ガロン2.827ドル(83.7円/ℓ)、ディーゼルは前週比1.9セント値上がりの3.226ドル(95.5円/ℓ)となった。ガソリンは3週ぶりの値上がり、ディーゼルは4週ぶりの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年8月19日～8月25日に休止したトッパー能力は0.0万バレル/日で、前週に対して0.9万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は368.7万klと、前週に比べ0.9万kl減少。前年に対しては4.9万klの減少。トッパー稼働率は94.2%と前週に対して0.2ポイントの減少、前年に対しては1.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/14.9%減、ジェット/9.8%減、灯油/1.9%減、軽油/23.3%増、A重油/16.6%減、C重油/23.6%増。今週のC重油の輸入は6.7万kl(前週比13.1万kl減)。軽油の輸出は19.4万kl(前週比0.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では灯油、軽油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は93.2万kl(対前週15.2%減)と前週比で2週連続で減少となり、6週振りに100万klを下回っ

た。

ジェット7.1万kl(対前週33.4%減)、灯油9.2万kl(対前週19.5%増)、軽油69.4万kl(対前週102.2%増)、A重油17.0万kl(対前週68.7%増)、C重油15.6万kl(対前週30.0%減)。

(単位:千KL)

	今週 (8/19 ~ 8/25)	前週 (8/12 ~ 8/18)	前週比
ガソリン	932	1,100	▼ -168 (-15%)
ジェット燃料	71	106	▼ -35 (-33%)
灯油	92	77	▲ 15 (19%)
軽油	694	343	▲ 351 (102%)
A重油	170	101	▲ 69 (68%)
C重油	156	223	▼ -67 (-30%)
合計	2,115	1,950	▲ 165 (8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月25日時点の在庫は、A重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは155.4万kl、前週差6.4万kl増。前年に対しては14.9万kl少ない。

灯油は212.1万kl、前週差14.1万kl増。前年に対しては16.1万kl少ない。

軽油は164.2万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては4.6万kl多い。

A重油は77.3万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては3.2万kl少ない。

C重油は203.5万kl、前週差14.7万kl増。前年に対しては8.7万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (8/25)	前週 (8/18)	前週比
ガソリン	1,554	1,490	▲ 64 (4%)
ジェット燃料	1,126	1,082	▲ 44 (4%)
灯油	2,121	1,980	▲ 141 (7%)
軽油	1,642	1,620	▲ 22 (1%)
A重油	773	780	▼ -7 (-1%)
C重油	2,035	1,888	▲ 147 (8%)
合計	9,251	8,840	▲ 411 (4.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月21日から8月27日の原油価格は前週対比で値上がりし、為替レートはわずかに円高であったが、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、同期間で、ガソリン120円台でやや値上がり、軽油67円台で値下がり後ほぼ横ばい、灯油66円台でわずかに値下がり後ほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン121~123円台で

値下がり後急騰、軽油69~70円台で横ばい後上昇、灯油65~68円台で大きく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン117~119円台で値下がり後大きく上昇、軽油68円台でやや値下がり後横ばい、灯油65~68円台で大きく値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、2.0~2.5円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、油種、取引によって、値上がり、横ばい、値下がり大きく分かれたが、夏場にもかかわらず、海上と先物の灯油が急騰したことが注目される。

9月第1週(8月30日~9月5日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月21日~8月27日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油も0.6円の値下がり。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.8円の値下がり、灯油は1.6円の値上がり、軽油は横ばいだった。

先物価格は、ガソリンが0.4円の値上がり、灯油は2.2円の値上がり、軽油は0.2円の値下がりだった。

原油価格は値上がりし、為替はわずかに円高であったが、原油コストは値上がりした。

9月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0~2.5円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (8/21 ~ 8/27)	前週 (8/14 ~ 8/20)	前週比
レギュラー	66.5	66.3	▲ 0.2
灯油	66.3	66.7	▼ -0.4
軽油	67.2	67.8	▼ -0.6

[期近物/終値][平均]	今週 (8/21 ~ 8/27)	前週 (8/14 ~ 8/20)	前週比
レギュラー	64.5	64.1	▲ 0.4
灯油	67.5	65.3	▲ 2.2
軽油	68.1	68.3	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.2	▲ 0.4	▲ 0.3
灯油	▼ -0.4	▲ 2.2	▲ 0.9
軽油	▼ -0.6	▼ -0.2	▼ -0.4
A重油	▼ -0.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の151.8円、軽油は同0.2円安の130.5円、灯油は同0.1円安の92.9円(18ℓベースでは1円安の1,673円)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに2週連続の値下がり、ガソリンは14週連続で150円を上回った。都道府県別に、ガソリンの値上がりは7県、横ばいは6県、値下がり34都道府県だった。全国最安値は徳島県の146.3円(前週比0.1円安)、次が埼玉県の147.1円(同0.7円安)、最高値は長崎県の162.1円(同0.5円高)。最も値上がりしたのは、0.8円高の岡山県(149.8円)、最も値下がりしたのは、1.0円安の福井県(151.7円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに2.0~2.5円の値上げとなった。今週の原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円高だったが、原油コストは値上がりした。次週(9月3日)のガソリンの小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

[週動向]	今週 (8/27)	前週 (8/20)	前週比	直近高値
レギュラー	151.8	151.9	▼ -0.1	08/8/4 185.1
灯油	92.9	93.0	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	130.5	130.7	▼ -0.2	08/8/4 167.4

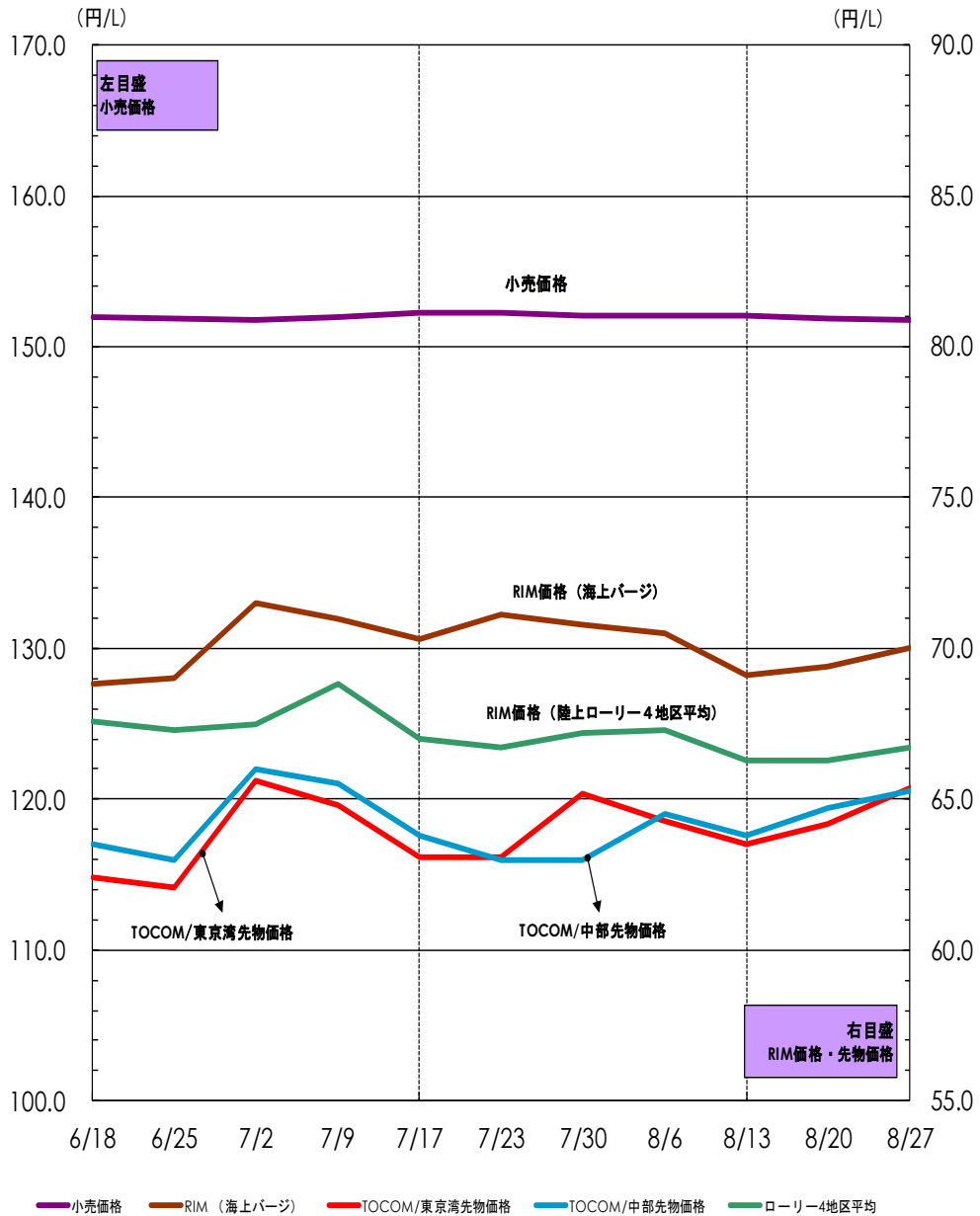
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/6/18 ~ 2018/8/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第21号)の公表は、9/7(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。